

学科到達目標

基本理念

優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する。

養成すべき人材像

- 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者 (人間性)
- 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者 (専門性)
- 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者 (国際性)
- 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者 (創造性)

教育方針

- 一、技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
- 一、個性を伸ばし、独創的能力の開発に努力する。
- 一、教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する。
- 一、健康の増進に努め、身体的精神的に強靱(きょうじん)な耐久力を育成する。
- 一、規律ある日常生活に徹し、明朗、闊達(かつたつ)な資性の涵養(かんよう)を図る。

学習・教育目標 (大項目)

本科 (準学士課程)

- RA多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
- RB数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。
- RC国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
- RD技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。
- RE実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
一般	必修	国語	履修単位	2	2	2																	伊勢 光			
一般	必修	歴史	履修単位	2	2	2																	手嶋 泰伸			
一般	必修	地理 (F1,F2)	履修単位	2	2																		荻野 繁春			
一般	必修	地理 (F3,F4,F5)	履修単位	2	2																		門井 直哉			
一般	必修	基礎解析A	履修単位	4	4	4																	中谷 実伸, 山田 哲也, 相場 大佑, 松原 邦昭, 柳原 祐治			
一般	必修	基礎解析B	履修単位	3	3	3																	井之上 和代, 長水 壽寛, 柳原 祐治, 山田 哲也, 朝倉 相一			
一般	必修	物理	履修単位	2	2	2																	岡本 拓夫, 松和久, 荻原 慎洋			
一般	必修	化学	履修単位	2	2	2																	山本 裕之, 牧野 芳之			
一般	必修	生物	履修単位	1	1	1																	山本 裕之, 赤松			

一般	必修	政治経済	0002	履修単位	2													廣重 準 四郎
一般	必修	解析Ⅱ	0003	履修単位	3													相場 大 佑
一般	必修	保健体育	0004	履修単位	2													青木 宏 樹, 島 田, 茂 章 弘
一般	必修	英語Ⅲ	0005	履修単位	4													森 貞
専門	必修	数理統計学	0006	履修単位	2													朝倉 相 一
専門	必修	工学基礎物理Ⅰ	0007	履修単位	2													岡本 拓 夫, 長 谷, 川 智 晴 田, 卓 郎
専門	必修	電子回路Ⅰ	0008	履修単位	2													西 仁司
専門	必修	電気回路	0009	履修単位	2													野村 保 之
専門	必修	電気磁気学Ⅰ	0010	履修単位	1													川上 由 紀
専門	必修	数値計算	0011	履修単位	1													西 仁司
専門	必修	プログラミング応用	0012	履修単位	2													斉藤 徹
専門	必修	計算機構成論Ⅰ	0013	履修単位	2													青山 義 弘
専門	必修	オペレーティングシステム	0014	履修単位	2													蘆田 昇
専門	必修	電子情報工学実験Ⅱ	0015	履修単位	4													川上 由 紀, 野 村, 保 之 條 史 小 松 貴 大 青山 義弘
専門	必修	情報ネットワーク基礎	0035	履修単位	2													斉藤 徹
一般	必修	国語表現	0001	履修単位	2													清島 絵 利子
一般	必修	解析Ⅲ	0002	学修単位	2													柳原 祐 治
一般	必修	保健体育	0003	履修単位	2													青木 宏 樹, 島 田, 茂 章 弘
一般	選択	ドイツ語	0004	履修単位	2													村田 幸 子
一般	選択	中国語	0005	履修単位	2													呉 淑敏
一般	必修	日本語Ⅲ	0019	履修単位	2													高久 有 一
専門	必修	応用数学	0006	学修単位	2													長水 壽 寛
専門	必修	工学基礎物理Ⅱ	0007	学修単位	2													挽野 真 一, 岡 本, 拓 夫, 長 谷, 川 智 晴
専門	必修	電子回路Ⅱ	0008	履修単位	2													小松 貴 大
専門	必修	信号解析基礎	0009	履修単位	1													下條 雅 史
専門	必修	電気磁気学Ⅱ	0010	履修単位	2													高久 有
専門	必修	電子材料・デバイス	0011	履修単位	2													牧野 芳 之
専門	必修	創造工学演習	0012	履修単位	2													高久 有 一, 齊 藤, 徹 村, 田 知也 中西 孝之

福井工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	コミュニケーション
科目基礎情報					
科目番号	0016	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子情報工学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	Intensive English Grammar in 27 LessonsThe Essence of College English Dictation				
担当教員	吉田 三郎,村 香織				
到達目標					
(1)日常的な話題について英語の談話を聞き、その中の情報・考えなどを理解できること。 (2)自らが持つ情報・考えなどを、英語の談話や文章で、場面や目的に応じた表現を用いて述べられること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語 I とも関連をもった内容で、正しく通じる英語表現に必要な文法・構文の基礎知識の習得に取り組む。英語音声面の習熟、すなわち聴く・話す能力を養成し、日常的に使用される基本的会話表現を身につける。				
授業の進め方・方法	英語文法・構文の基礎知識の講義、演習を行う。また、英語独自の音声変化、音のつながり、省略等にも対応できるリスニング力を伸ばすとともに、発表活動を取り入れて、将来の英語によるプレゼンテーションの基礎力を育成する。なお、テキストの進度や扱う内容は、英語 I 教科書の進度や内容に準拠させて、習熟を支援する。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Introduction : 自己紹介、英語学習について		
		2週	1章～3章: 品詞、文の種類、文型		
		3週	1章～3章: 品詞、文の種類、文型		
		4週	4章: 時制 Contraction (音の短縮)		
		5週	5章: 時制		
		6週	6章: 完了形 (1) Contraction (音の短縮)		
		7週	Review : 文法のまとめ		
		8週	Mid-term Examination		
	2ndQ	9週	Exam Review 7章: 試験答案解説、完了形 (2)		
		10週	1 3章: 不定詞		
		11週	1 4章: 不定詞 (2) Elision (音の消失)		
		12週	1 5章: 不定詞 (3)		
		13週	1 6章: 動名詞 (1) Liaison(音の連結)		
		14週	1 7章: 動名詞 (2)		
		15週	Term Exam		
		16週	Review : 試験答案解説		
後期	3rdQ	1週	1 8章: 分詞 (1)		
		2週	1 9章: 分詞 (2) Deletion (音の脱落)		
		3週	1 9章、Plus : 分詞構文		
		4週	2 2章: 関係詞		
		5週	2 3章: 関係詞 Deletion (音の脱落)		
		6週	2 4章: 関係詞		
		7週	Review : 関係詞のまとめ Deletion (音の脱落)		
		8週	Midterm : Mid-term exam		
	4thQ	9週	Exam Review : 試験答案解説		
		10週	2 5章: 仮定法 Assimilation (音の同化)		
		11週	2 5章: 仮定法		
		12週	2 6章: 仮定法 Reduction (音の弱化)		
		13週	2 6章: 仮定法を用いた表現		
		14週	2 6章: 文法のまとめ		
		15週	Final Exam		
		16週	Review : 文法のまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	課題	授業中のコミュニケーション活動への参加状況	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	

基礎的能力	0	0	0	0
專門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	論理回路
科目基礎情報						
科目番号	0017		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	「論理回路入門」坂井修一著 (培風館)					
担当教員	青山 義弘					
到達目標						
(1) N進数、位取り記数法を理解し、算術演算、論理演算が出来ること。基本的なブール代数計算が出来ること。 (2) 与えられた仕様から目的の論理関数を導出できること。 (3) 与えられた演習課題に対して、決められた期限内に提出できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	位取り記数法が理解でき、負数の概念、補数が理解でき、基数変換、N進数の演算ができる		位取り記数法、負数の概念、補数が理解でき、基数変換、2進数の演算ができる		位取り記数法が理解できず、基数変換ができない	
評価項目2	基本的な論理関数を理解し、形式の変換、基本形を作成することができ、様々な公式を証明できる		基本的な論理関数を理解し、形式の変換、基本形を作成することができ、様々な公式を利用できる。		論理関数の特徴を理解できず論理演算ができない	
評価項目3	与えられた仕様から真理値表、カルノー図など作成し、最適な論理関数を導出できる		与えられた仕様から論理関数を導出でき、カルノー図を作成できる		与えられた仕様を理解できず、真理値表が作成できない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	コンピュータの基本的な仕組みを理解するため、コンピュータ内部の数値表現、演算から始まり、ブール代数、組み合わせ回路を学ぶ。					
授業の進め方・方法	授業においては、座学を中心とし、論理回路に関する講義と演習を行なう。					
注意点	授業外学修のための課題(予習復習、授業内容に関する調査・考察)を課す。期限を守って必ず提出すること。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス：シラバスの説明、アナログ値とデジタル値、N進数の位取り記数法	アナログ値とデジタル値の特徴を理解する。N進数の位取り記数法を理解する		
		2週	位取り記数法と計算：2進8進16進数、補数、負数、加減乗除算	正の値の2進8進16進数の加減乗除算ができる。		
		3週	位取り記数法と計算：2進8進16進数、補数、負数、加減乗除算	補数を理解する。 負数の表し方を理解する。 負数の計算ができる。		
		4週	基本的な論理演算の概要、基本的な論理ゲート、真理値表、ブール代数を学ぶ	基本論理演算、基本公式を理解する。 真理値表が書ける。		
		5週	ブール代数の公式を学ぶ	各種公式を覚え利用できる。 論理式の式の変換ができる。		
		6週	加法標準形、乗法標準形を学ぶ	証明問題が解ける。標準形を作れる。		
		7週	ドント・ケアを学ぶ。 式の単純化を学ぶ。 カルノー図を学ぶ。	ドント・ケアを理解し、式の単純化ができる。 カルノー図を描き、単純化ができる。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	試験の解答、解説、ブール代数、標準形、単純化（ドント・ケアの処理）	ドント・ケアを応用し、単純化ができる。		
		10週	ブール代数、標準形、単純化（ドント・ケアの処理）	ドント・ケアを応用し、単純化ができる。		
		11週	組み合わせ論理回路の設計方法を学ぶ。	要求仕様を理解し、要求された組み合わせ論理回路の真理値表が書ける		
		12週	組み合わせ論理回路の設計方法を学ぶ。	真理値表をもとに、論理回路の設計ができる。		
		13週	代表的な組み合わせ回路（加減算器、ALUなど）について学ぶ。	代表的な組み合わせ回路（加減算器、ALUなど）を理解し、設計できる		
		14週	代表的な組み合わせ回路（デコーダ、MUX、パリティなど）について学ぶ。	代表的な組み合わせ回路（デコーダ、MUX、パリティなど）を理解し、設計できる。		
		15週	期末試験			
		16週	学習のまとめ	学習のまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	計算機工学	整数・小数を2進数、10進数、16進数で表現できる。	4	
				整数・小数をコンピュータのメモリ上でデジタル表現する方法を説明できる。	4	
				基数が異なる数の間で相互に変換できる。	4	
				基本的な論理演算を行うことができる。	4	
				基本的な論理演算を組み合わせ、論理関数を論理式として表現できる。	4	
			論理式の単純化の概念を説明できる。	4		

				論理ゲートを用いて論理式を組合せ論理回路として表現することができる。	3	
				与えられた組合せ論理回路の機能を説明することができる。	3	
				組合せ論理回路を設計することができる。	3	
			情報数学・ 情報理論	集合に関する基本的な概念を理解し、集合演算を実行できる。	3	
				集合の間の関係(関数)に関する基本的な概念を説明できる。	3	
				ブール代数に関する基本的な概念を説明できる。	4	
				論理代数と述語論理に関する基本的な概念を説明できる。	4	
				コンピュータ上での数値の表現方法が誤差に関係することを説明できる。	3	
				コンピュータ上で数値計算を行う際に発生する誤差の影響を説明できる。	3	
				コンピュータ向けの主要な数値計算アルゴリズムの概要や特徴を説明できる。	2	

評価割合			
	試験	レポート	合計
総合評価割合	70	30	100
算術演算	15	5	20
論理演算	15	5	20
論理式の導出	40	20	60

福井工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	プログラミング応用		
科目基礎情報							
科目番号	0012	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2				
開設学科	電子情報工学科	対象学年	3				
開設期	通年	週時間数	2				
教科書/教材	「C言語によるはじめてのアルゴリズム入門」 河西朝雄 (技術評論社)						
担当教員	斉藤 徹						
到達目標							
(1) プログラム言語での基本的なデータやファイルを扱う基本的なプログラムが、記述できる。(RB2)							
(2) 様々なデータを扱う応用プログラムでの基礎的文法を理解し、プログラムの内容が理解できる。(RB2)							
(3) 与えられた仕様の趣旨を理解し、プログラムの基本設計ができること。(RB2)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	プログラミング言語によるデータ処理、情報処理、などを通じてデータ表現技法や各種の処理技法および基本的かつ代表的なアルゴリズムについて講義し、演習によって理解を深める。						
授業の進め方・方法	プログラムの効率の良い作成を行う基礎力を高めるために文法の理解をさらに深める。また、断片的な知識の習得にならないように、基礎技法を実践的に身につけるために各種のデータ表現技法や処理技法およびアルゴリズムを具体化する演習課題に積極的取り組む。演習は座学で導入部を理解し、時間外学修の演習を通して、理解不足の復習や独自性のある課題への取り組みを行う。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	シラバスの説明、ガイダンス、基礎文法と制御構文の復習				
		2週	変数と数値の型				
		3週	関数と仮引数・実引数				
		4週	基数変換プログラム				
		5週	基数変換プログラムの演習				
		6週	配列とポインタ				
		7週	基本データとデータの型				
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	オペレーティングシステムの概要				
		10週	ファイル操作と木構造ファイル構造				
		11週	OSの操作演習				
		12週	標準入出力とリダイレクト				
		13週	パイプとフィルタ				
		14週	リダイレクトとパイプの演習				
		15週	前期期末試験				
		16週	前期学習のまとめ				
後期	3rdQ	1週	ファイルのオープン・クローズ処理				
		2週	ファイル入出力命令				
		3週	ファイル入出力の演習				
		4週	入出力リダイレクトと操作を交えた演習				
		5週	パイプ機能と、パイプを用いたプログラムの連携				
		6週	複数の情報をまとめる構造体				
		7週	構造体とデータ抽象				
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	構造体を用いた基本的な演習				
		10週	共用体と列挙型				
		11週	関数とのデータの受け渡しと構造体				
		12週	構造体とポインタを交えたプログラムでの型				
		13週	オブジェクト指向プログラミング				
		14週	構造体とファイルを交えたプログラミング演習				
		15週	学期末試験				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	工業英語		
科目基礎情報							
科目番号	0018	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1				
開設学科	電子情報工学科	対象学年	5				
開設期	前期	週時間数	1				
教科書/教材	プリントを各グループで配布する						
担当教員	高久 有一						
到達目標							
(1) 基本的な電子情報工学に関する基礎知識を理解できること.							
(2) 一般的な英語論文の構文を理解して訳すことができること.文章中に現れるグラフや表の書き方および注釈の書き方について理解できること.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技術の国際的な交流が活発になされる現代において,技術者は専門分野に関わる英文の読解力が必要とされている.そのため電子工学および情報工学の分野に関する技術英文の読解力を高め,技術論文,基本的な解説書の内容が理解できるようにする.						
授業の進め方・方法	卒業研究を担当する電子情報工学科各教員がいくつかのグループに分かれて,配属学生に対してグループごとに題材を選び英文輪読を行い個別指導を行なう.						
注意点							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	シラバスの説明、購読文献の紹介 : 次回の予習	授業外学習			
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	計算機アーキテクチャ	
科目基礎情報						
科目番号	0029		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子情報工学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	必要な資料は毎回コピーを配布する					
担当教員	青山 義弘					
到達目標						
(1) コンピュータが計算する仕組みをゲートのレベルから構成法であるアーキテクチャまで理解すること						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	計算機、特にデジタル電子計算機について、その構成法と動作をアーキテクチャの観点から理解するとともに、計算機を構成する要素を回路のレベルから動作を理解し、目的に適した構成方法を自ら選択し設計する方法を修得する。					
授業の進め方・方法	本科目は学修単位科目である。従って、授業においては、座学を中心とし、計算機アーキテクチャに関する講義と演習を行ない、さらに、授業外学修のための課題(予習復習、授業内容に関する調査・考察)を課す。					
注意点						
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバスの説明。計算機の構成に関する基礎知識			
		2週	プロセッサの基本動作復習			
		3週	計算性能と入出力装置			
		4週	パイプライン処理方式の特徴と設計方法			
		5週	パイプライン処理方式の特徴と設計方法			
		6週	パイプライン処理方式の特徴と設計方法			
		7週	パイプライン処理方式の特徴と設計方法			
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	スーパースカラ処理			
		10週	スーパースカラ処理			
		11週	スーパースカラ処理			
		12週	並列処理の現象			
		13週	並列処理の現象			
		14週	並列処理の現象			
		15週	期末試験			
		16週	内容の復習			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	計算機工学	ハードウェア記述言語など標準的な手法を用いてハードウェアの設計、検証を行うことができる。	4	
			コンピュータシステム	処理形態の面でのコンピュータシステムの分類である集中処理システムと分散処理システムについて、それぞれの特徴と代表的な例を説明できる。	4	
				ネットワークコンピューティングや組込みシステムなど、実用に供せられているコンピュータシステムの利用形態について説明できる。	4	
				デュアルシステムやマルチプロセッサシステムなど、コンピュータシステムの信頼性や機能を向上させるための代表的なシステム構成について説明できる。	4	
				システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを説明できる。	4	
				ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。	4	
			プロジェクト管理の必要性について説明できる。	4		
評価割合						
	試験	レポート	合計			
総合評価割合	70	30	100			
基礎的能力	20	10	30			
専門的能力	40	10	50			
分野横断的能力	10	10	20			

福井工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	データベース		
科目基礎情報							
科目番号	0034	科目区分	専門 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	電子情報工学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	データベース技術教科書—DBMSの原理・設計・チューニング IT TEXT" 都司達夫、宝珍輝尚(著) CQ出版社						
担当教員	斉藤 徹						
到達目標							
(1)データベースを操作するためのSQLなどの基本的知識を理解し、データ操作を記述することができる。(RB2)							
(2)データベースを扱う上で、機能・セキュリティ・効率などを考慮できること。(RB2)							
(3)データベースの基本設計方式を習得できる事(RD1)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法	教科書に沿って授業を行う。 データベースの基本構成、設計、操作方法など、適時演習課題を行いながら学習を進める。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	シラバスの説明・ガイダンス				
		2週	データベースシステムの基本概念				
		3週	各種データモデルについて				
		4週	関係モデルの基礎				
		5週	関係データベースの操作				
		6週					
		7週	データベーススキーマ				
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	関数従属性と正規形				
		10週	トランザクション				
		11週	同時実行制御				
		12週	データと索引				
		13週	B木,B+木				
		14週	データベース技術の応用など				
		15週	最新の動向について				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0